

新型コロナウイルス感染症

感染拡大防止に関する情報などについて

5～11歳の新型コロナワクチン予防接種について

厚生労働省は令和4年1月21日に、5～11歳向けのアメリカ製薬大手ファイザー製新型コロナウイルスワクチンを特例承認しました。オミクロン株の感染拡大で子どもの感染例が急増しており、今後小児への接種が始まります。

5～11歳の感染者の大多数は軽症であると報告されていますが、今後ますます感染者が増加した場合には、子どもの中等症や重症例が増える恐れがあると日本小児学会では予測しています。感染予防などのメリットと接種による副反応などのデメリットをお子さんも含めた家族の方が理解したうえで、接種するかどうか判断しましょう。

国からワクチンが供給後、接種を始められるよう準備を進めています。詳細が決まりましたらお知らせしますのでしばらくお待ちください。

接種対象者について

接種日において佐井村に住民登録がある5～11歳までの方

接種場所

大間病院での接種となります。

※接種日当日は保護者の同伴が必要です。

定期的に治療中の病気があり、むつ市内などほかの医療機関での接種を希望される方は受診時にご相談ください。

接種するワクチンについて

5～11歳用のワクチンは、12歳以上のものとは別の製剤で、有効成分の量は3分の1です。3週間の間隔をあけて2回接種します。

ファイザー社によると、約2,300人が参加した海外の臨床試験で、デルタ株などの従来株に対し、ワクチンを接種した場合の発症率が、接種しない場合よりも91%減ったという結果がでています。

追加接種（3回目）を受けられるみなさんへ

追加接種では初回接種でファイザー社ワクチンを接種した方が、3回目はモデルナ社ワクチンを接種する交互接種が認められています。

国からのワクチンの供給は種類が選べず、モデルナ社ワクチンでの接種日の方がファイザー社ワクチンまで接種を見合わせたいという場合、接種日が遅くなってしまう可能性があります。オミクロン株が流行している現在、いつどこで感染するかわからない状況です。接種のチャンスを逃さずに3回目の接種を受けるようにおすすめします。

「交互接種」について

新型コロナウイルスのワクチンの副反応について、アメリカの研究グループは、3回目の追加接種でそれまでとは異なるワクチンを使っても、接種後の副反応とみられる症状はいずれも2回目までと大きな違いはなかったと報告しています。

グループではワクチンを接種済みの450人を対象に、追加接種でファイザー社やモデルナ社など異なるワクチンを接種した際の症状などについて詳しく調べました。

その結果、いずれも56歳以上の分析で副反応とみられる症状は次のとおりでした。

	ファイザー・ファイザー＋ファイザー	ファイザー・ファイザー＋モデルナ
注射した部位の痛み	85%	72%
けん怠感	77%	56%
頭痛	50%	52%

研究グループでは、対象となった人数が少ないとしたうえで、いずれの場合でもほとんどは軽症で、予想外のものはみられなかったほか、2回目までに接種したワクチンの種類によって明らかな傾向の違いはみられなかったとしています。

どういった反応が出るかは個人によって異なるので、3回目の接種の方が副反応が軽く済む方もいれば、同じ程度の方や重くなる方もいるかもしれません。